

変わるもの 変わらないもの



様々なことが目まぐるしく変わっていく現代において、お寺の役割にも変化を求められているように感じます。

住職が近隣寺院との勉強会で学んできたことを同朋会のみなさんと共有したい、との思いから九月の同朋会では、同朋会員のみなさんと一緒に自分たちが子どもだった頃と現在の生活や考え方の変化について話し合うワークショップを行いました。幼少期の貴重な体験をお聞かせいただいて、変わりゆく社会の中でお寺が関与の場としてどのような役割を担うべきなのか、道標をいただきました。

お寺の変化

昔はおもしろい話が聞ける楽しい場所だった。
お寺というと暗いイメージだったが、最近はお参り以外のお寺の活動が増えて明るいイメージになった。
こどもをお寺に連れていく習慣がなくなった。

他宗教の変化

宗教が選べるようになった。
葬儀の簡素化。
墓じまいの問題。
新興宗教やカルト宗教の問題

社会の変化

震災後、助け合おうという気持ちが芽生えてきた。
核家族・単身家族が増えて祖父母との関係性が薄くなった。
政治に無関心な世代が増えた。
若い人に伝えたいが伝わらない。語り合う場がほしい。

生活、情報の変化

インターネットの発達で情報が発信しやすくなった。いろいろな年代、職業を越えて交流したり、互いに尊敬しあうことができるようになった。
匿名による誹謗中傷がひどい。

同朋会で考えてみた。社会の変化、お寺の変化。

住職法話

「天上天下唯我独尊（てんじょうてんげゆいがどくそん）」

お釈迦様は生まれてすぐに七歩歩いて「天上天下唯我独尊」と言われたという逸話があります。七歩というのは六つの迷いの道、六道輪廻を越えた七歩目に生き生きと生きる道があるのだということをあらわしています。インドの釈迦族の王子として生まれ、自分の思い通りになる国から一歩外に出た王子は、思い通りにならないこととして、生老病死の現実に対面します。インドはカースト制度の国で、生まれたカーストによって差別され、命がそのままに生きられないということがあります。老いること、病気になること、死ぬことだけでなく生まれることも選べない、思い通りにならない現実の中で、本当はどの命も平等ですべて尊い存在であるとお悟りを開いたお釈迦様。「わたしも他の人も上下のない、他の人とは比べる必要のない、唯一の存在として尊いのだ。」ということを生まれた時に宣言したという逸話はお釈迦様が命の尊さを生涯かけて伝え続けたということを表しています。

徳 泉 寺 報

No. 7 1

発行

令和5年9月

発行元 徳 泉 寺

仙台市宮城野区

榴岡 3-10-3

(022)297-4248

tokusenji.sendai@gmail.com

[ai@gmail.com](mailto:tokusenji.sendai@gmail.com)



ホームページ

tokusenji-

sendai.com



Instagram

tokusenji.sendai



九月同朋会より